

人権教育研究

あいさつ

校長 飯島 修

子どもたちに人権感覚を身に付けさせるためには、子ども一人一人が自分のよさや可能性を見発見するとともに、友だちのよさや可能性を認める態度を育成し、児童が対等で豊かな人間関係を築き、ともに学び活動することが大切です。そこで、研究主題を「よさを認め合い、ともに学びともに活動する、三尻っ子の育成」とし、児童の実態、保護者や教師の願い、国県市の動向を分析し、『熊谷の子どもたちは、これができます！「4つの実践」「3減運動に挑戦！」』の取組をもとに、研究を進めてまいりました。

本日、ここに研究の一端を発表させていただきますが、これからも引き続き人権教育の推進に努めてまいりたいと考えております。終わりに、これまで御指導いただきました熊谷市教育委員会の先生方をはじめ、関係の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも御指導御助言を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

I 研究の概要

1 研究主題

『よさを認め合い、ともに学びともに活動する、三尻っ子の育成』 ～子どものねがいを大切にした、授業づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

学校教育目標

○進んで学ぶ子 ○心豊かな子 ○最後までがんばる子

知

徳

体

三尻小ミッション【力いっぱい、元気よく、笑顔あふれる三尻小】

「やる気」「元気」「本気」「根気」

教師の願い
・豊かな心で人に接する
ことができると共に自己を大切にする児童になつてほしい。

人権教育目標
「人権教育の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする三尻っ子を育てる。」

保護者の願い
・思いやりや優しさをもつ子になってほしい。
・自他の命を大切にする子になつてほしい。

○明るく素直な子どもが多く友だちにも協力的である。●自分で正しく判断し行動する自主性に欠ける。

重点目標

ひまわり学級
○友だちと仲良く活動する子

低学年
○友だちと仲良くし、だれとでも協力する子

中学生
○一人一人の友だちを大切にし、相手の立場に立って行動する子

高学年
○差別や偏見をもつことなく、公平に接し、他人の人権を尊重する子

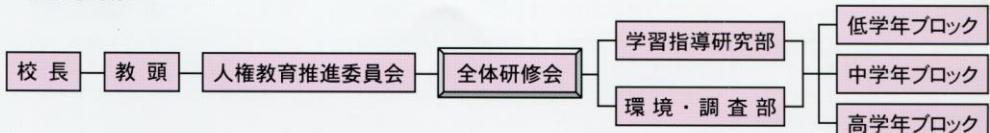
<主題設定の理由>

子ども一人一人に自分自身の「よさ」を実感させることができる教育を行うことで、自己肯定感を育み、お互いの価値観を尊重しようとする意志や態度を培うことができる。そこで、自分のよさを発見し、他者のよさを認める態度を育むことで、子どもどうしが豊かな関係を築き、ともに学びともに活動する子どもを育成することができる、と考え本主題を設定した。

3 研究の構想



4 研究組織について



II 研究の実践

学習指導研究部

1 学習指導研究部では、自分のよさに気付き、友だちのよさも認められる児童の育成をめざして、子どもどうしが関わり合う場面を意図的に設定し、さらに、一人一人を生かす授業を展開することをねらいとし、以下のような具体的な取組をした。

2 具体的な取組

(1) ブロックごとの「人権教育の目標」「めざす児童像」及び、それらを実現させるための「手だて」

	人権教育の目標	めざす児童像	手だて（具体的な活動や場面）
ひまわり 学級	友だちと仲よく活動する子	(1) 自分の思いを言える子	1-ア 話し言葉だけでなく、身振りや手振り、表情等でも自分の思いを伝えられるようになる。 1-イ 最後まではっきりと話をさせる。
		(2) 友だちの考えを聞ける子	2-ア 話す相手の方を向いて聞かせる。 2-イ 相手の話を最後まで聞かせる。
		(3) 友だちと仲よくできる子	3-ア 友だちのことを考えた行動や言葉掛けを積極的にほめる。
低学年	友だちと仲よくし、されどでも協力する子	(1) 自分の考えを言える子	1-ア 指名されたら必ず返事をさせる。 1-イ 友だちの発表などを参考にしてもよいから自分の考えをもたせる。
		(2) 友だちの考えを最後まで聞ける子	2-ア 手懃せず、話す相手の方を向いて聞かせる。 2-イ 相手の話を最後まで聞かせる。
		(3) 友だちと仲よくし、協力できる子	3-ア やさしい行動や言葉掛けができる児童を積極的にほめる。
中学生	一人一人の友だちを大切にし、相手の立場に立って行動する子	(1) 自分の考えをはっきりと伝えられる子	1-ア 自分の考えをみんなに聞こえるように発表させる。 1-イ 友だちのよいところを自分から進んで発表させる。
		(2) 友だちの考えを自分の考えと比べながら聞ける子	2-ア 友だちの考えを最後まで聞き、あたなかく受け止めさせる。 2-イ グループ活動のときに話している人の方向を向かせる。
		(3) 相手の立場を考え、協力できる子	3-ア 自分の役割を理解し、声をかけ合いながら活動させる。 3-イ 自他の考えを比べながら話し合わせる。
高学年	差別や偏見をもつことなく、公平に接し、自他の人権を尊重する子	(1) 自分の考えのよさを、わかりやすく伝えられる子	1-ア 自分の考えをノートなどにまとめる時間を設ける。
		(2) 友だちの考えのよさを認め合いながら聞ける子	2-ア 友だちの考えのよさを見つけ、称賛する場面をつくる。
		(3) 自他を大切にし、公平に行動できる子	3-ア 自分の考えも相手の考えも尊重し、誰とでも協力して活動できるようにさせる。 3-イ 一人一人に活躍の場を与え、所属感や成功体験、達成感を味わえるようにさせる。 3-ウ 振り返りの時間を確保することで、自他のよさに気付かせる。

(2) 学習規律の確立

授業の中で、お互いのよさを認め合い、ともに学ぶためには授業の基本である学習規律を確立することも重要な課題である。特に、『話すとき』『聞くとき』に重点を置き、具体的な行動目標を示した。

☆話すとき

話す: みんなで話す。話すよ。話すう。に。話すます。に。話すよ。話すう。に。話すます。に。話すよ。話すう。に。話すます。に。

☆聞くとき

聞く: 最後に聞こえる。うなづく。かに聞く。うなづくことには。静かに最後まで聞く。

具体的な行動目標を示したので、表情や態度でわかり、できているときは、大いにほめ、子どもたちの自尊感情を高めることができた。

自分の考えを相手にしっかり伝える。

(3) 様々な場面で一人一人のよさを認め伝えるための工夫

①座席表

年組座席表メモ(7月11日～7月17日)			
黒板			
④⑤ △取	⑥⑦ 計算が速い 班リーダー	⑧⑨ 読み書きスローガン 紹介	⑩⑪ 並んでる友だち に声かけ 好きじゃない 25m②OK.

全員に目を向けるため、座席表を用いる。記載の少ない児童を意識して支援することができた。

②ノートの朱書き

授業終了後、ノートを集め朱書きを入れる。「ほめる」ことで、児童の学習意欲を高めることができた。

(4) 人権教育年間指導計画の見直しと活用

各月ごとに個別の人権課題を2～3程度、発達の段階を考慮し取り上げて実践するように見直しを図った。また、どの学年においても人権感覚育成プログラムを取り入れるようにした。

月	教科領域	単元・題材・主題	目標	人権教育上の視点	備考
11	社会	世界に歩みだした日本	・2つの戦争後、国際的地位が向上したことを理解するとともに我が国の近代化や自由・平等に貢献した先人の努力を思う心情を育てる。	・全国水平社の創立について正しく理解するとともに、偏見や差別に立ち向かった人々の姿勢を共感的に理解させる。 【同和問題】	
	特別活動	人権感覚育成プログラム「あなたにとって大切な物は」	・自他の価値観の相違を知り受け入れ合うことの大切さを学んだりすると共に、人間としての尊厳や価値に気付くことができる。	・毎日の生活の中で、いろいろな見方、考え方があることを理解させ、思慮深さの大切さに気付かせる。 【子ども】	

3 成 果

(6年生より抜粋)

◎「めざす児童像」や「手立て」を明確にし、人権教育年間指導計画を見直し活用したことで、教師の人権意識を高めることができ、主題に迫る授業を展開することができた。
◎機会をとらえて、教師が進んで子どもたちをほめたので、子どもたちは認められる場面が増え、自尊感情を高めることができた。

環境・調査部

1 環境・調査部では、一人一人の子どもが自尊感情を育み、学級の一員であるという所属感や自己肯定感をもてるような環境づくりをすることをねらいとし、以下の取組をした。

2 具体的な取組

(1) 児童の実態調査・職員アンケートからの目標分析

目標分析 (平成22年度6月実施)

職員が本校児童の課題を挙げ、それをウェブ図にまとめた。そのことにより、児童のさまざまな課題が自己肯定感と関連していることが分かった。

(2) 環境づくり (番号は目標分析との関わり) ◎学年コーナー ② ③ ⑥

学年掲示コーナーをつくり、人や本との関わりなど児童の活動を掲示し、活動を振り返ることができる場とした。また、その時の児童の気持ちを吹き出しにして入れ、児童どうしの関わりの大切さを実感できる場とした。

◎行動モデルの掲示 1 2 6

◎人権コーナー 4 5



めざす行動への意識付けを図り、規範意識の向上をめざしました。

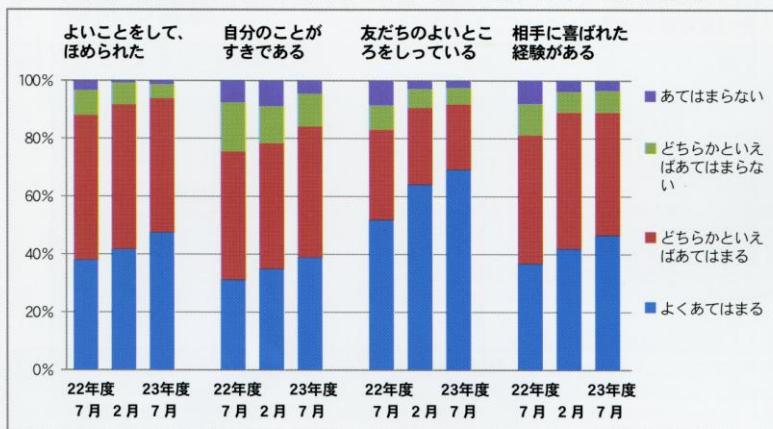


友だちのよいところを見つけ、掲示コーナーに貼る。「ありがとう」を自然に言える雰囲気が学校全体に広がった。

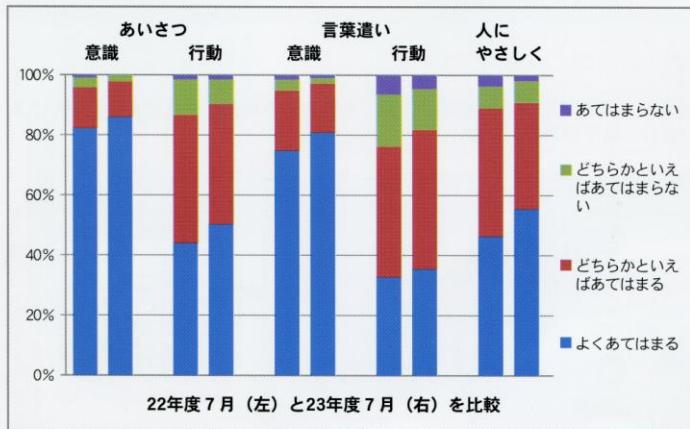


自分自身に目を向け、所属感を実感したり自尊感情を育んだりすることをめざしました。

(3) 児童の学校生活アンケート（平成22年度7月・2月、平成23年度7月実施）



- どの項目についても、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童が増加した。
- 23年度7月の調査では、友だちのよさを認める項目について、「どちらかといえばあてはまる」児童が、自信をもって「よくあてはまる」と答える。これは、人間関係が深まった結果と思われる。



※「規範意識」と「自分の行動」について、「時間を守る」「あいさつ」「そうじ」「仕事に責任をもつ」「命の大切さ」「言葉遣い」「人にやさしく」について調査した。

- 「規範意識」はすべて、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」児童が95%を超えている。
- 「自分の行動」については、意識に比べ達成率が低い。頭で理解しているが、行動に移せない実態がある。
- 「言葉遣い」の達成率は向上しているものの84%に留まり、他の行動に比べて低い。

3 成 果

- 「ほめられる」経験が「自己肯定感を培う」とともに「他者を受容する」ことに結び付き、相乗効果を生んでいることから、友だちを共感的に理解する態度が養われたと考える。
- 他者との関わりが増え、望ましい人間関係が築けるようになり、自己有用感も向上した。
- 規範意識について、特に6年生は「時間」「責任感」において大きく向上した。縦割り活動などのリーダーの経験の積み重ねが、最高学年としての自覚の育成を促した結果と考えられる。

III 人権感覚を育む取組

1 全教育活動を人権教育の視点から見直し、具体的な活動を通して、主題に迫りたいと考えた。

2 具体的な取組

(1) 様々な取組との関わり

【規律ある態度】

- ・授業の開始と終了のあいさつ
- ・事前の学習準備
- ・話すとき、聞くときの姿勢と態度
- ・清掃活動
- ・給食の時間



【人権週間の取組】

- ・人権作文、人権ビデオ
- ・人権標語、校長講話
- ・人権集会
(外部講師の招聘)



【地域社会との関わり】

- ・三尻小おやじ倶楽部
- ・放課後子ども教室
- ・ウインタースクール
- ・昔遊びの会
- ・東日本大震災への募金活動
- ・フリー参観（道徳授業）

【行事等との関わり】

- ・三尻っ子環境フェスティバル
- ・三尻っ子ファーム
- ・運動会、持久走大会
- ・彩の国教育週間
- ・職員研修

【特別活動との関わり】

- ・縦割り活動
- ・あいさつ運動、廊下歩行運動

【個に応じた指導】

- ・すぐすぐ委員会
- ・生徒指導委員会、学力向上検討委員会
- ・教育支援計画、個別の指導計画

【教科との関わり】

- ・音楽アウトリーチ、観劇
- ・全校読書、読み聞かせ、読書月間
- ・校外学習

(2) 熊谷市の子どもたちはこれができる！4つの実践、3減運動に挑戦との関わり

○ありがとうの花・・・

友だちをたくさんつくる

→友だちへの感謝や良いところを花に書いて人権コーナーに貼る。

○学習規律の徹底・・・

呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする

→学習への自発的参加とけじめ、挙手と返事の意識付け。

○読書月間・・・・

テレビの時間を減らします

→心を耕し、視野を広め、読んだ本を全校に紹介する。

IV 成果と課題

○人権感覚の育成をねらいとした年間指導計画等の改善を図ったことで、共通認識のもとに授業を展開することができた。

○一人一人の児童を「ほめる」ことで、自尊感情を育むことができた。

○座席表を用いた学習の様子を記述することで、児童理解を深め、個々の児童を確実に認めることが可能となった。

○全ての授業で共通の学習規律が確立され、落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことができるようになった。

○教職員が組織的・計画的に研修を積み、人権感覚を育んだことにより、今後の日常生活にも繋げることができた。

○縦割り活動、ありがとうの花、最後まで静かに聞くなど子どもどうしが関わる場面を数多く設定したので、お互いに認め合える雰囲気が醸成できた。

△児童・教職員ともに人権感覚を身に付けてきたが、児童にはその学年に合った目標を設定することが重要である。
発達の段階に応じて、人権感覚と人権問題解決のための行動力も成長させたい。

△集中して、研修会を設定してきたが、全教師が揃って実施するのが困難であった。今後無理なく、継続できるように整理する必要がある。

△地域との連携をより高めるとともに、「4つの実践」、「3減運動に挑戦！」との関連を図りながら、人権教育を推進していきたい。